

みなさま、お疲れ様です。

このたび第5回インフラメンテナンス大賞の技術開発部門において、NEXCO総研等と共同開発したキャビテーション清掃車が優秀賞に選ばれたことを受け、山本社長と産業機械部の吉村主任が庄原市長を訪問し受賞の報告を行いました(重機工場の赤木幸博係長も一緒に訪問する予定でしたが、仕事のため同行を見送りました)。



記念撮影の後、木山市長と懇談の時間が設けられ、今後も世に必要とされる開発を期待していますと激励していただきました。



賞状や楯をご覧になり称賛されました。



第5回インフラメンテナンス大賞 優秀賞受賞



左から山本社長、木山庄原市長、吉村主任
(2月16日(水)、庄原市役所市長室にて)



おめでとうございませす



今回のインフラメンテナンス大賞で、各賞を受賞した企業・団体の取り組み内容や技術開発が紹介された冊子の中に、このたび優秀賞を受賞した概要が掲載されています(別紙添付をご覧ください)。他の受賞者の方々の案件もとても興味深い内容ばかりです。

国土交通省のホームページからも閲覧できますので、ぜひご覧ください。

←冊子アドレス

<https://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/maintenance/03activity/pdf/05maintenanceaward.pdf>



食堂での講義の様子

2月15日(火)、長谷川労働安全コンサルタント事務所の長谷川勇先生による安全衛生教育が行われました。この日は、『溶接ヒュームが特別化学物質に追加』されたことで法改正が行われ、どのようなことが義務付けられたのか等の講義でした。今後も毎月15日に食堂で勉強会が行われる予定です。

安全に
安全衛生教育

～溶接ヒュームが特化物(特定化学物質)に！～

溶接ヒュームとはアーク溶接の際、アークから発生する熱によって溶けた金属が蒸気となり、空気中で冷やされて金属の微細な粒子に変化したものです。これまで「粉じん」として健康障害防止対策が講じられてきた溶接ヒュームですが、神経障害等に影響を及ぼす化学物質が含まれることが明らかとなり、政令と厚生労働省令が改正されました。これにより、継続して屋内作業場で金属アーク溶接等を行う作業について、令和3年4月1日より健康障害防止措置が義務付けられました。全体換気装置による換気の実施や空気中の溶接ヒューム濃度を測定することなど、新たに定められた規則に従いながら労働者の健康を守るためにも作業環境の管理が必要となります。



発生すると白い煙のように見えるヒュームは、一度吸い込むと体内に蓄積していく有害物質で中毒性がある。



アーク溶接とは・・・アーク放電という空気中に発生する電流を利用する溶接方法で、自動車、航空機、建築物等あらゆる金属構造物に使われている。身近なもので例えると、電化製品のプラグをコンセントから引き抜いた時に発生する火花がアーク放電。

特定化学物質とは・・・労働者に職業がん、皮膚炎、神経障害等を発症させる恐れのある化学物質のことで、厳しく規制されている。

2022年2月22日は「スーパー猫の日」
「2」が6つ並ぶのは、鎌倉時代の1222年2月22日以来で、800年ぶりの「2」並びデーは「スーパー猫の日」と称され、全国各地で猫関連イベントが盛りだくさんだったそうです。ちなみに、2022年2月22日22時22分の東京の気温は2.2度だったとのこと！愛猫家にはたまらぬ日となりました。